

東日本大震災のその後（鹿島港・常陸那珂港）について

平成24年12月記
横浜支部・鹿島支所
主任TE 鳥海 亮

震災当日の3月11日は、常陸那珂港で施工状況確認補助業務を担当しておりました。3月12日以降は、当局職員の方々と被災状況の確認と被災状況写真の撮影等の補助を行った後に、主要な岸壁である常陸那珂港外港地区の-14m、-12m岸壁の仮復旧工事が行われましたので、立会確認等の施工管理業務を行いました。24年4月から鹿島港の担当として異動になりましたが鹿島港においても東日本大震災の地震の影響による液状化に伴うケーソン式岸壁の前傾、舗装部の陥没・沈下、津波による航路・泊地が埋没の被害が約20施設にも発生し被害が甚大でした。

鹿島港湾空港事務所は鹿島港の主要な公共岸壁である南公共埠頭地区の-7.5m、-10m岸壁の復旧、外港地区-24m航路等の復旧を早期に行うように港湾管理者や利用者から要望されていました。

このため、南公共埠頭地区の岸壁や外港地区の航路・泊地浚渫工事が災害復旧工事として発注されたことにより、SCOPEが災害復旧工事の施工状況確認補助業務を担当することとなりました。

SCOPE担当者としては通常の施工状況確認業務とほぼ同じ立場で出来形管理等を行うことを心がけ、発注者並びに請負工事業者に対応しました。

鹿島港の南公共埠頭地区のケーソン式岸壁は地震による液状化によりケーソンが前傾したため、復旧工事では、傾いたケーソンを安定させるために、ケーソン後趾上部に重量の大きい(2.8t/m³)重量コンクリートをカウンターウェイトとする工法等を採用し、復旧工事期間を少なくする等の工夫がなされています。

また、請負工事業者においては、東北地区で復旧工事が多いために機械・労力の手配(品薄なこと)や、材料の手配等での苦労があるように見受けられました。

東日本大震災から1年7ヶ月が経過しましたが鹿島港・常陸那珂港ともに24年度内には、主たる施設の復旧工事は完了する予定です。しかしながら、現場へ行く途中に鹿嶋市内の街中を走行すると下水道・排水路などの復旧工事が盛んに行われており、元の生活環境に戻るまでは、まだ少し時間を要するよう思われます。

現場担当者からの目として、現況把握のための現地調査を指導された当局の方々並びに調査に協力された請負工事業者の方々、そして、それらの資料をもとに、設計・積算された方々のご苦労が多かったことと推測します。

< 鹿島港 震災直後と現況 > 南公共埠頭(A・B岸壁) < 被災状況 >



- ・ エプロンの陥没・液状化
- ・ 前面はケーソン前傾斜

< 復旧状況 >



- ・ 傾斜の著しいケーソン背後に重量コンクリート
(赤囲み枠のアスコンの下部に施工)

外港地区 -14m岸壁
＜被災状況＞



＜復旧状況＞



- ・ 上部コンクリート2スパン残して被災
- ・ 法線の出入りが激しく蛇行
- ・ 平成25年の供用開始に向けて
- ・ 背後設備(茨城県工事)も急ピッチで施工中

＜鹿島港ドライドッグから震災により浮上漂流したケーソン＞



漂着したケーソンの取り壊し



＜常陸那珂港 震災直後と現況＞（写真は当局・常陸那珂港事務所提供による）
外港地区－14m岸壁
＜被災状況＞



・ ガントリークレーンの岸壁・基礎被災

＜復旧状況＞



・ ガントリークレーン基礎杭部

＜復旧工事完了後の－14m岸壁の稼働状況＞



追伸

宮城県出身の私からひとこと

このように、公共施設・設備などは、急ピッチで復旧されていきますが、生活基盤を失った東北沿岸の当地の方々の復旧・復興はまだです。応援していきましょう。